

資料4-2

中央教育審議会大学分科会
大学院部会(第71回)
H26.12.9



一橋大学大学院における キャリア支援の取組 (外国人留学生を含めて)

2014年12月9日(火)

国立大学法人 一橋大学
学生支援センター キャリア支援室 大学院部門
三浦 美樹

「キャリア支援室 大学院部門」とは

**アカデミック
・キャリア支援**

研究職を志望する院生に対する
学修・研究活動の側面支援

**プロフェッショナル
・キャリア支援**

研究職以外を志望する院生に対する
進路選択や就職の支援

- 前身は社会学研究科の2007～2009年度GP「キャリアデザインの間としての大学院～入口・中身・出口の一貫教育プログラム～」
- 2011年度より全学展開(3年間の概算要求「社会科学系大学院におけるパッケージ型キャリア支援プログラム」)
- 2014年度は学内予算にて運営

波及効果をめざして



2014年3月に書籍刊行

【おもな目次】

序章 大学院重点化と院生の就職

I 大学教員としての就職

第1章 大学教員として就職するために

第2章 「いま・ここ」の研究活動から始める

第3章 博士号取得者のキャリア形成から学ぶ

II 企業等への就職

第1章 院生が直面する問題

第2章 修士課程修了者の事例から学ぶ

第3章 「文系院生は不利？」を乗り越える

第4章 日本で就職をめざす外国人留学生へ

III 「伝えるスキル」の養成

院生の進路希望

修士課程

			就職希望	進路に迷う	進学希望
日本人	学部卒者	約6割	約6割	約1割	約3割
	社会人経験者	約1割		(?)	
留学生	学部卒者	約2割	<日本>	<帰国>	少数
	社会人経験者 (おもに母国での 職務経験)	約1割	約7割	1-2割	

支援の注力対象

博士後期 課程

アカデミック・ポスト志望者
(大学教員、それ以外の研究職)

左記以外の就職への進路転向者
(企業、国家／地方公務員・専門職公務員、高校教
員など)

院生のキャリア支援のあり方

院生

- 「文系院生は就職に不利」という不安をもつ。
- 研究と就職活動の両立という困難を抱える。

<研究科別の傾向>

- 【商・経】 専門を活かすことを希望。
- 【社・言】 ビジネスに関係しない専攻であるため、一層の不安を抱く。

企業

- 文系の場合、院生と学部生の採用基準は同じ。
- 専攻・研究テーマはほぼ無関係。
- 「学部生+ α 」を求める(課題設定・解決力、論理的思考力など)。

↓
経営環境の変化のなか、文系院生が養っている力を求める企業は増えている(ただし、多くの企業は「無自覚」)。

キャリア支援

「研究と就職活動の相乗効果を生み出す」

- 自身の問題意識をもとに、将来の方向性や志望先を考える
- 大学院での経験を自己PRに活用する
- 大学院での経験を就職活動の諸場面に応用する
- 就職活動で得たことを研究に還元する

「相乗効果」を生み出すための支援

個別相談

1対1で約1時間の面談を実施。

【おもな相談】

- ・ 進路選択(進学or就職)
- ・ 志望先の選定
- ・ 就職活動の具体的な進め方
- ・ 院生としてのアピールのしかた

各種イベント

- ・ 4月:「修士課程の過ごし方を考える」セミナー
- ・ 6・7月:内定者座談会
- ・ 10月:就職ガイダンス——企業が「文系院生」に求めるもの
- ・ 11月～1月:OB・OGキャリア座談会
- ・ 4月以降:ワークショップ(エントリーシート作成、面接対策)

情報提供

- ・ 冊子(『就職ハンドブック』、『就職活動体験記』など)
- ・ WEBサイト(修了者インタビューの掲載など)



	利用者数	
	個別相談※1	各種イベント
2011年度	390(15%)	448
2012年度	365(15%)	660
2013年度	390(19%)	573
2014年度※2	198	204
4年間総計	1343	1885

※1: 括弧内は修士課程の在籍者に対する利用率。大学院部門設立前の2010年度は8%(2013年度は+11%)。

※2: 2014年度は10月31日までの集計。



留学生のキャリア支援のあり方

留学生

- 日本での就職を見据えて、専攻を変えて商・経に進学する人が多い（修士留学生の3/4が商・経）。
- 大学院進学直前に来日した人が多く、日本語力（特に会話力）はまだ十分ではない。
- 年齢が高い、母国で数年の職務経験などがある人もいる。
- 日本に独特な「新卒一括採用」が理解しにくい。

企業

- 留学生を積極的に採用したい企業は増加傾向（採用数はまだ少ない）。
- 採用目的は「国籍不問で優秀な人材の活用」、「ダイバーシティ推進」。
- 日本語力（特に会話力）はかなり求める。日本の企業文化の理解・適応も重視。
- 母国／海外とかかわる仕事を任せるとは限らない。



キャリア支援

留学生だけに特化した支援の注力

- 就職活動に関する継続的な情報提供
- 留学生によくある失敗をふまえたアドバイス
- 学外ボランティアによる日本語会話力向上プログラムの実施

留学生に特化した支援

個別相談

【おもな相談】

- ・ インターンシップ
- ・ 就職活動の具体的な進め方
- ・ 志望先の選定
- ・ 留学生としてのアピールのしかた

各種イベント

- ・ 4月:オリエンテーション(日本での就職活動の進め方)
- ・ 5月:内定者座談会
- ・ 10月:就職活動ガイダンス
- ・ 11月:エントリーシート作成講座
- ・ 11月・12月:「本音で語る」会——OB・OG編、採用担当者編

※すべて留学生のみを対象として実施

情報提供

- ・ 冊子『外国人留学生のための就職ハンドブック——日本でキャリアをスタートするために』
- ・ リーフレット



	利用者数	
	個別相談※1	各種イベント※2
2011年度	59(13%)	-
2012年度	89(14%)	112
2013年度	159(30%)	251
2014年度※3	54	129
4年間総計	361	492

※1: 括弧内は修士課程の在籍者に対する利用率。大学院部門設立前の2010年度は9%(2013年度は+21%)。

※2: 学部留学生と合同でおこなったイベントも含め、大学院留学生のみの参加者数。

※3: 2014年度は10月31日までの集計。

今後の課題

新卒就職 希望者

1. 2016卒の採用スケジュール変更により、研究との両立がいつそう困難に

⇒インターンシップの重要性が増す。
院生への推奨強化が必要。

<インターンシップ応募・参加で期待される成果>

- 就職先を選ぶ基準の明確化
- 就職活動に関する情報収集およびネットワークづくり
- 実践的な応募経験

上記以外 の対象者

院生の多種多様な経歴、進路希望に応じた支援の充実化には、さらなる体制整備が必要。

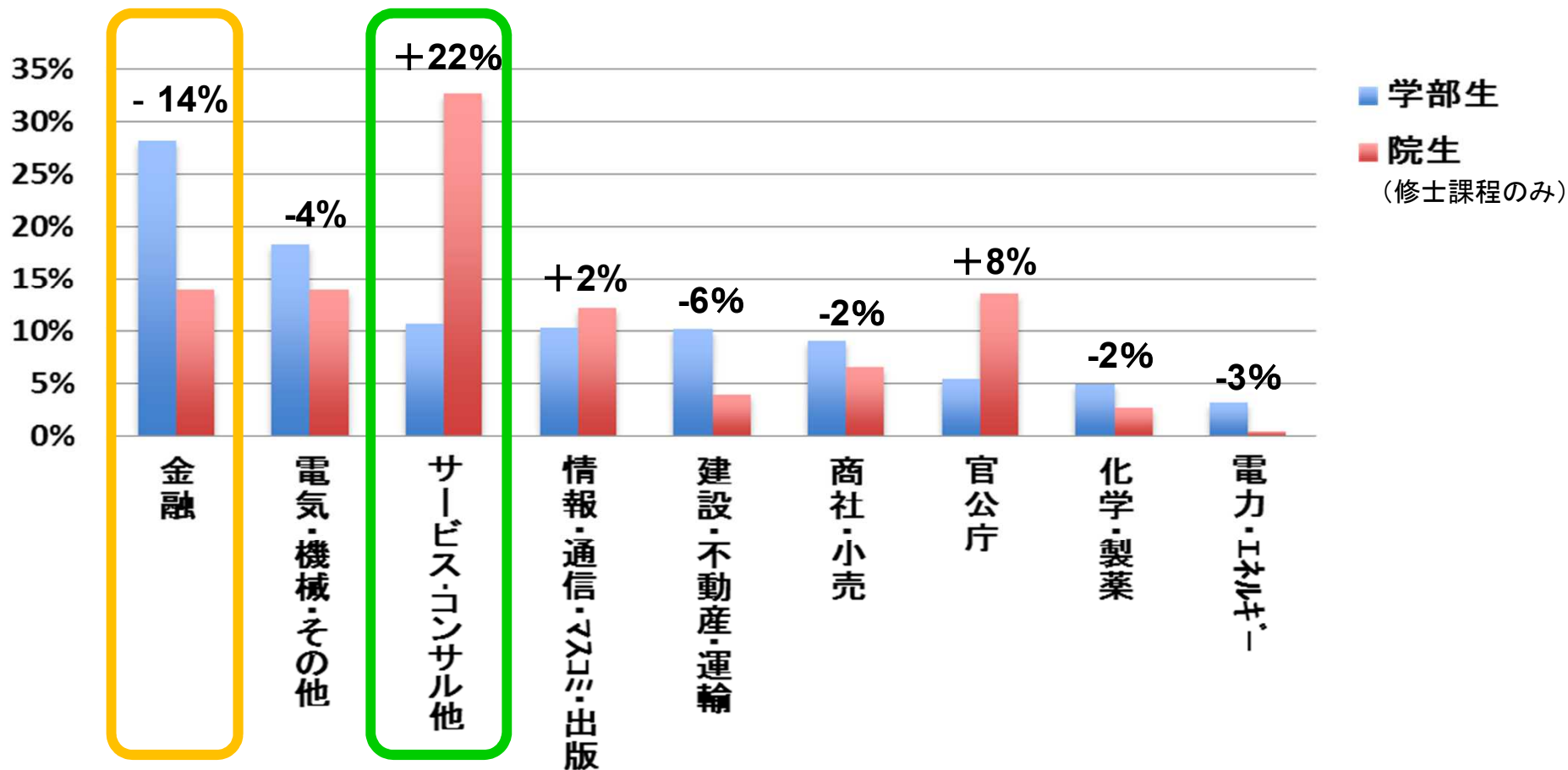
2. 企業へのPR強化

⇒「一橋大学キャリア・パートナーシップ・プロジェクト」の始動(約300社が参加)。

人文・社会科学系院生、外国人留学生の積極的PRを進める。

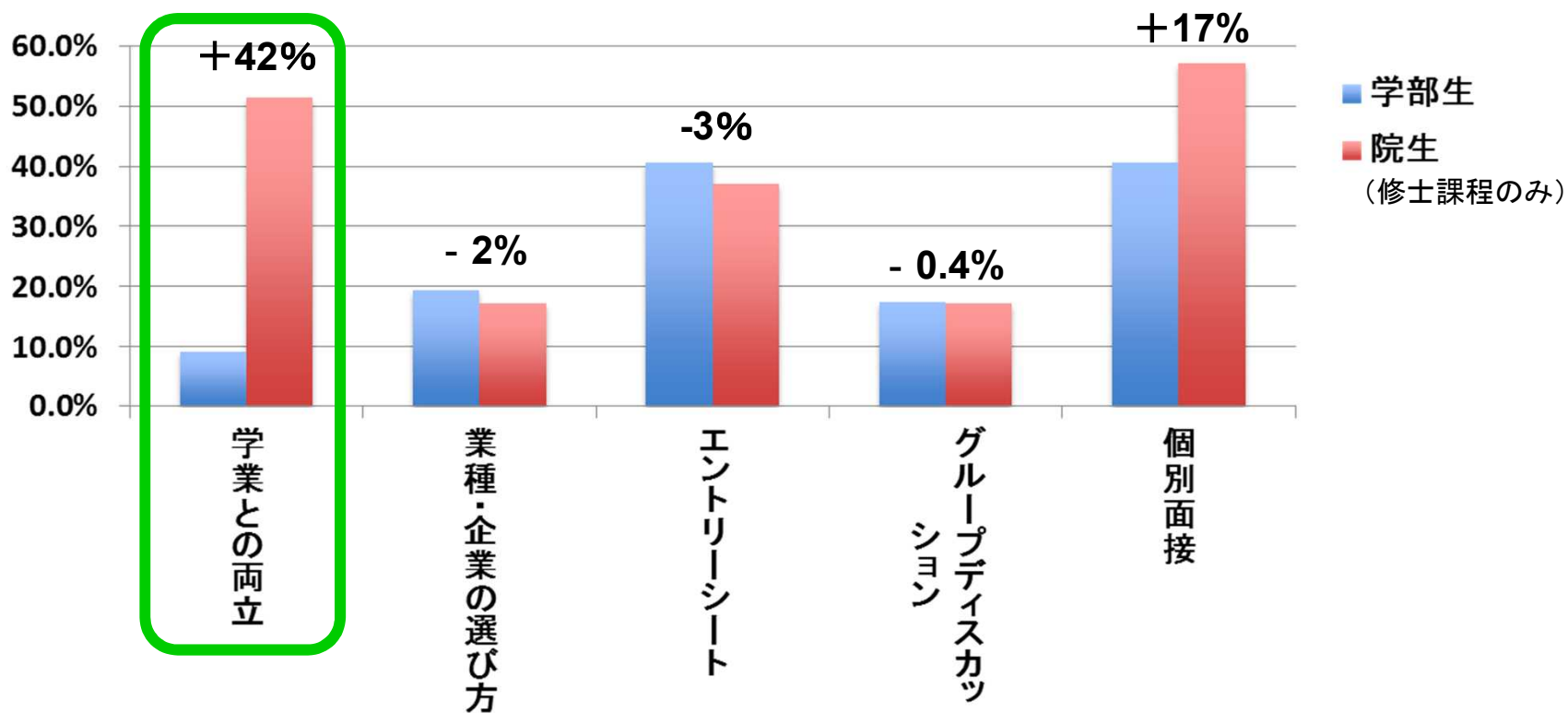


業界別就職先(2014年卒)



就職活動アンケートの結果

【Q】内定を取るにあたり、どんなことに苦労しましたか。



【調査概要】

- 実施期間: 2014年7月7日から2014年8月3日
- 実施方法: WEBにてアンケート回答サイトを作成し、学部4年生1345名(うち留学生55名)、修士2年生446名(うち留学生136名)に対してメール配信により依頼
- 回答対象: 2015年卒の就職活動を経験した一橋大学の学生(大学院生を含む)
- 回答数および回答率: 学部生218人(19.9%)、院生35人(11.4%)